

日本の将来に不安を抱いている人は多い。多大な債務、人口減少、頻発する災害、増大する年金、国際競争力の低下、混とんとする国際情勢など、気がかりな点が多い。しかし、これらを真正面から議論する機会は少ない。組織が縦割り化し、組織内で解決できる範囲に問題を限定するからだろう。多くを他組織に依存し、全体を見ずに組織内の問題のみを考えている。

筆者の日常も、個別課題の最適化に時間が取られ、全体の最適化に費やす時間が不足している。着眼大局着手小局の態度が大切だ。

かつては、組織を超えた議論を非公式にしていた。夜に本音を語り昼間は建前で語った。しかし、最近、本音を語りあう機会が減った。公式の場では、録音・録画され議事録が残るため、機微に触れる発言がしにくい。過度な競争社会では、コスト重視の効率化が、人・組織・物・時空間のゆとりを削る。バ

ホンネで語り 減災ルネッサンスを実現

福和
仲夫

リニューエンジニアリングでは、最低基準の法規制をギリギリで満足するために科学・技術を使いかねない。過去の災害で、少しの無駄によって、危機を乗り越えてきたことを忘れている。

建前だけの社会は、大きな課題から目を背ける。本音を

語る社会を取り戻す必要がある。本音は信頼関係がなければ語れない。信頼は競争ではなく協働の仲間意識によって生まれる。地元愛は信頼関係を築く一つの手段になる。

同じ船に乗っていると思えば、共通の目的地を目指して無事な航海のため力を合わせる。

まさにそんな気持ちを持って、巨大災害・南海トラフ地震から地域を守り、減災を通じた地域ルネッサンスを目指して「ホンネの会」を地元で始めた。各地で、明るく・楽しく・前向き（あ・た・ま）に、自律・分散・協調型の社会を築いていきたい。（名古屋大学減災連携研究センター長・教授）

Essay

随

筆